

受験番号

氏名

2021 年度

国 語

サンプル問題

時間 50 分 100 点満点

受験上の注意

1. 問題用紙・解答用紙には、受験番号・氏名を記入してください。
2. 答えはすべて解答用紙に記入してください。
記入の方法を あやま 誤 ると得点になりません。
3. 終わりの合図とともに、問題用紙・解答用紙を提出してください。

東京女子学園中学校

一 次のカタカナを漢字に直し、漢字は読みをひらがなで答えなさい。

- 1 マルタ小屋を建てる
- 2 ねこのヒタイほどの土地
- 3 シュウカン誌の記事
- 4 仏前に花をソナえる
- 5 シカク試験に合格する
- 6 風の便りに聞いた
- 7 山の頂に登る
- 8 遠浅の海岸
- 9 仕事を委任する
- 10 千差万別

二 次の傍線部は成句です。 に入ることばをひらがなで答えなさい。なお、 の中の数字は字数です。

- 1 証拠を突き付けられて。 2 を割る
- 2 予算オーバーだ。 2 がでた
- 3 なまいきな 2 をきく
- 4 つまらなくて 2 もそつけない
- 5 化けの 2 がはがれる

三 次のことばの対義語を語群から選び、漢字に直して答えなさい。

- 1 安心
- 2 常設
- 3 結果
- 4 支出
- 5 乗車

【語群】 かせつ げしや げんいん しゅうにゅう しんぱい

四次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

私^{わたし}は、画家アンリ・マティス^{アンリ・マティス}の後援者^{こうえんしや}である。マダム^{マダム}に仕える美術好きの家政婦である。
ある日、マダムの邸宅^{ていたく}に咲いたマグノリア^{たいさばく} 泰山木^{たいざんぼく}の花をマティスに届けることになった。

お邸^{やしき}に戻ると、すぐさま、私は芸術家からの親書をマダムに手渡しました。マダムはその場ですぐ^{さう}に封^{ふう}をあけ、「読^よめ」と、ふっと口もとに笑みを寄せました。そして、いたずらっぽいなさしを私に向けると、おっしゃいました。

まったく、あなたはいったい、何をしでかしたのかしら？」

私は、戸惑^{とまど}いを隠^{かく}せませんでした。まさか、花瓶^{かびん}の一件と、^①私の不遜^{ふそん}なひと言^{ひとこと}が、ムッシユ・マティスのご気分を害^{がい}してしまったのかしら。それを、マダムに言いつけたのでは？

私があんまりうるたえたからか、マダムは耐^たえきれず笑い出しました。そして、

ああ。マリア。何があったのか知らないけれど、あなたは芸術家のこころをとらえたようね」
実に楽しげに、そうおっしゃった。

なんのことやらわからずに、私はほかんとするばかりです。マダムは笑いをこらえながら、ノートカードを私に差し出しました。さあ、これをこらんなさい、とおっしゃって。

カードには、見覚えのある文字——あの躍^{おど}るようなHenri Matisseのサインと同じ文字が青いインクで綴^{つづ}られていました。

親愛なるマダム

あなたが私に贈^{おく}ってくださったのは、マグノリアですか、それともマリアですか？ 欲張りな私は、両方いただくことにいたしました。

Henri Matisse

そうして、私は、マダムのお取り計らいで、お勤めに上がることになったのです。オテル・レジナに——
アンリ・マティスのもとに。

あとから聞いたことなただけれど、^②ムッシユ・マティスが私を家政婦として迎^{むか}えたい、と決めた要因^{よき}は、ふたつあったそうなんです。

ひとつは、マグノリアの花を、あの花瓶にすんなりとかたちよく活けたこと。
実は、一九四一年に描かれた『マグノリアのある静物^{えが}』で、まったく同じ花瓶に、マグノリアの花を一輪活けて描いたそうなのよ。ええ、その通り。いまポンピドゥセンターのコレクションになっている、あの赤が基調になった楽しい静物画^{ぐうぜん}。私、あのときまでに、その作品をみたことはなかったんです。だから、ほんとうにほんとうの偶然^{ぐうぜん}の一致^{いっし}なんだけど。

あの作品では、マグノリアが活けられた翡翠色^{ひすいいろ}の花瓶の後ろに、オレンジ色の鍋^{なべ}が置いてあるでしょう？ 大きな丸い口をこち向きにしてね。まったく、芸術家の感性っていうのは、どういうものなんでしょうね。マグノリアと、鍋。そんな取り合わせすら、うつくしい、と思わしてしまう巧妙^{こうみょう}さ。どんな

^③陰鬱^{いんうつ}な時代でも、ひととき、せめて絵を眺^{なが}めているあいだくらいは、何もかも忘れて、夢を見ることが

できるように。痛みをなくす麻酔ますいのような力が、先生の絵にはある。

とにかく、あの作品に登場したのと同じ花瓶を私が選び取り、また、たった一輪の花を活けたというさやかな一致を、先生は喜んでくださったのです。

あのブロンドの婦人、ひと頃はマティスのモデルであり、そのときは助手を務めていたリディア・デレクトルスカヤから聞かされました。『グノリアのある静物』を描いた頃、先生はリヨンで十二指腸がんの手術をして、それは大変な時期だったのだと。戦争も長期化しそうな気配があつたし、明るいニュースは何もない。そんな中で、先生は、あの作品を描いた。

世の中が難しい時期にあつて、画家にできることは、ただ調和を表現すること。もしも、完璧かんぺきな調和を表現できれば、それが私の勝利なんだ。

先生は、そうおっしゃっていたそうです。

ちょうど同じ時期、かのパブロ・ピカソはまったく違うアプローチをしていたそうよ。ちが

あの『アルニカ』で痛烈つうれつに戦争を批判した芸術家が、世界大戦を傍観ぼうかんするはずがない。ずっとあとになつて、画集か何かで見たわ。同じ一九四二年に、『血とソーセージのある静物』というのを描いていてね。ああ、あなたもご存じ？

ほとんど真つ暗まごといつていい室内、テーブルの上に、気味の悪いソーセージがぐにやりと渦を巻いて……大きな包丁が、どん、とその横に載せられて、テーブルの開いた引き出しからは、凶器きようきのようなフォークが、によきによきといっぱい突き出している。ピカソが、どれほどむきになって戦争に抗あらがっていたのか、ひと目で感じられる絵。

リディアが言っていたわ。先生が入院先のリヨンからニースに戻もどられたあと、パブロ・ピカソが訪ねてこられたときに、とても自慢じまんげに『グノリアのある静物』をお見せしたんですって。ムッシユ・ピカソは、もうずいぶん長いあいだ、心底アンリ・マティスを敬愛していたから、にこやかにそれをご覧になった。けれど、帰り道で、一緒に訪問したそのときの恋人——ええ、そう。フランソワーズ・ジローに、あれは構図が変だ。おかしい絵だ」とぼやいたんですって。戦争のときも、闘病とうびょうのときも、おなじように、いえないつも以上に明るく穏おだやかな絵を描くことができる。アンリ・マティスという芸術家を、化け物のように思つたんじゃないかって、フランソワーズがリディアに面白がつて打ち明けたそうよ。

あら、ごめんなさい。話が逸それてしまったわね。もとに戻もどしましょう。

私を家政婦として招き入れたもうひとつの理由。それは、あの最初の訪問のとき、君は、どうしてその花瓶を選んだのかね？」と尋ねられて、いたずらに私が先生に言ってしまった。たずあのひと言。

⑥この花をこの花瓶に活ければ、先生が恋をなさるのではないかと。
その言葉が面白かつたんだ、と先生ご自身から聞かされました。そはつか

お側仕えをさせていただくようになってしばらくしてから、ある日、先生が唐突とうとつにおっしゃったんです。マリア。あのとき君は、私が恋をするんじゃないかと言っていたね？ 花瓶に活けたマグノリアに「

そんなことはすっかり忘れていたので、あらためて持ち出されて、恥はずかしくなっていました。ずいぶん失礼なことを申し上げました。急な質問だったので、心に募つったそのままを言葉にしまつて

「言い訳がましいとはわかっていましたが、どうにか答えました。わけ

先生は、ふむ、とやわらく鼻を鳴らして、あのよく響くチェロのような声でおっしゃいました。不思議だったよ。私がいつもその瞬間しゅんかんを待っているのを、君は見抜みぬいてしまったようだった」
いつもその瞬間を待っている……^⑦ひと目ぼれの瞬間を。

先生は、ひと目ぼれをなさるんだそうです。窓辺の風景に。そこに佇む女性に。テーブルの上に置かれたオレンジに。花瓶から重たく頭を下げるあじさいに。

じっと見る。そして待つ。そう、あのときまさに私が感じた通り——全身を目にして全神経を研ぎ澄まして。

そして、ふとした瞬間に、そのもの、その構図を好きになってしまう。

光、色、かたち、配置。どれほど速く、的確に、また心情をこめて写し取るか、おわかりでしょう？ だって、ひと目ぼれなのよ。その気持ちを、一瞬を、逃がしてしまっただめ。たちまちまとめてしまわないと、一分後には世界は変わってしまっているのですから。そうして「ひと目ぼれ」をカンヴァスにコンテで描き写し、構図を考え、じっくりと配色を決め、それからゆっくりと、慎重に、絵の具を載せていく、まるで、恋を育み、やがて変わらぬ愛情に塗り替えていくように。

だから、完成した絵は、先生と対象との幸福な⑧のようなもの。
私は、知らず知らず、気づいていたようです。

マティスの目。それは、
⑨

マティスの心。それは、
⑩

マティスの指。それは、
⑪

この世に生を享けたすべてのものが放つ喜びを愛する人間。
それが、アンリ・マティスという芸術家なのです。

原田マハ「ジヴェルニの食卓」

問一 ①「私の不遜なひと言」とありますが、どのような「ひと言」ですか。文中からその一文をぬき出し、初めの五文字を答えなさい。

問二 ②「ムッシウ・マティスが私を家政婦として迎えたい」と決めた要因は、ふたつあったそうなんです」とありますが、その一つ目の理由を説明した次の文の「ア」「イ」に入ることばを文中からぬき出して答えなさい。アは2文字・イは5文字

マティスの描いた絵と同様の「ア」に「イ」ながらマグノリアを活けたから

問三 ③「陰鬱な時代」とありますが、どのような時代ですか。「ヤ時代」につながる三十字のことばを文中からぬき出し、初めの五文字を答えなさい。

問四

④「アンリ・マティスという芸術家を、化け物のように思った」とありますが、その理由の説明としてふさわしいものを次の中から選び、番号で答えなさい。

- 1 どんな大変な時期の中にあっても調和を重んじ、明るく穏やかな絵を描く才能に驚嘆したから。
- 2 完璧な調和を目指し、戦争を前にしてそれに抗おうとしない姿勢が、ピカソの生き方と正反対だったから。

3 心底敬愛していたマティスが、戦争を前にして今まで以上に明るくおだやかな絵をめざし、構図が変でおかしな絵を描いたから。

4 うつくしいマグノリアの花に、鍋を取り合わせて描くという構図を考え出した画家の巧妙さにますます敬愛の念を持ったから。

5 「私」が偶然とはいえ、おなじ花瓶におなじマグノリアの花を活けたことを知って、画家の才能のすばらしさに驚いたから。

問五

⑤「いたずらに」とありますが、この場面でのことばの意味の説明としてふさわしいものを次の中から選び、番号で答えなさい。

- 1 ひまにまかせて
- 2 悪ふざけで
- 3 つまらないことに
- 4 むなしいことに
- 5 不用意に

問六

⑥「その言葉が面白かったんだ」とありますが、その理由の説明としてふさわしいものを次の中から選び、番号で答えなさい。

- 1 二分後の世界はかわってしまうことを、「私」がマティス同様に知っていることに驚いたから。
- 2 偶然ながらもマティスの描いた絵とおなじ花を活けた理由が、あり得ない理由だったから。
- 3 言い訳がましい理由ながら、その誠実さと機転に好感を持って、「私」にひと目ぼれしたから。オブリジェ
- 4 対象にひと目ぼれをして絵を描くという、マティスの創作の秘密を「私」が見抜いたと感じたから。

5 マグノリアの花を活けることで、「私」がマティスに気に入られ、家政婦として雇われるたいことを遠回しに伝えたから。

問七

⑦「ひと目ぼれ」とありますが、この言葉を説明している三十字以内のことばを文中からぬき出し、初めの五文字を答えなさい。

問八

⑧に入る二字の熟語を答えなさい。

問九

⑨

⑩

⑪

に入ることばの組み合わせとしてふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア

⑨ 恋する娘が覗きこむ鏡のぞ

⑩ みつめる対象にせいいっぱい傾けられた清らかな水を注ぐ水差しかたむ

⑪ 胸にしみ入る旋律を弾き出すピアノの鍵盤せんりつ ひ けんぼん

イ

⑨ みつめる対象にせいいっぱい傾けられた清らかな水を注ぐ水差しのぞ かたむ

⑩ 恋する娘が覗きこむ鏡のぞ せんりつ ひ

⑪ 胸にしみ入る旋律を弾き出すピアノの鍵盤せんりつ ひ けんぼん

ウ

⑨ 胸にしみ入る旋律を弾き出すピアノの鍵盤せんりつ ひ けんぼん

⑩ みつめる対象にせいいっぱい傾けられた清らかな水を注ぐ水差しのぞ かたむ

⑪ 恋する娘が覗きこむ鏡のぞ

エ

⑨ みつめる対象にせいいっぱい傾けられた清らかな水を注ぐ水差しかたむ

⑩ 胸にしみ入る旋律を弾き出すピアノの鍵盤せんりつ ひ けんぼん

⑪ 恋する娘が覗きこむ鏡のぞ

問十

かのパブロ・ピカソはまったく違うアブローチをしていたそうよ。」とありますが、芸術家としてマティスとピカソは、それぞれどのように戦争に関わっていましたか。文中のことばを使って説明しなさい。

国語解答用紙

四				三	二	一	
問十	問七	問三	問一	1	1	6	1
						り	
				2	2	7	2
	問八	問四	問二	3	3	8	3
			ア				
	問九	問五	イ	4	4	9	4
		問六				10	える 5

受験番号

氏名

計 点